

■庭木の植え方■

庭木の植え方には、大別して「**水ぎめ**」と「**土ぎめ**」という方法があります。一般的には水ぎめで植え付ける事が多いので、水ぎめについて説明を致します。

まず、植え穴を掘ります。穴の大きさは、根鉢の直径の1.5倍くらいを目安にします。穴を掘った時、石などのガラや古根があったら取り除きます。次に植える木の向きを見ます。木にも顔(正面)があります。なるべく木の一本一本が正面を向くように植えつけるのですが、少し技術や経験が必要ですので、「ここにしよう!」と自分が気に入る向きを正面にさせていただいても結構です。正面が決まったら、植え穴に木を置きます。

幹の付け根部分が地表部より少し上になるように、穴の中央部に土を盛って調節します。根鉢の巻かれた縄や麻布はそのままで構いません。

その後、ホースなどで水をたっぷり注ぎこみます。水がたまるくらいになったら木をゆすったり、棒等でつつき根鉢の下まで水がいきわたるようにします。同時に根鉢の周りの空気も抜くことができます。再度水をたっぷり注ぎ、木が曲がっていないかももう一度確認をし、残りの土を埋め戻し、株の周囲を踏み固めます。

最後に株の周囲に高さ10cmほどの土盛をして「水鉢」を作り、一連の作業は終わりです。



植え穴を掘ります



根鉢より少し大きめの穴が良いです



土を盛ります



全体にいきわたる様、水をたっぷり与えます



最後に水鉢を作ります